



東京都知事

小池 百合子 様

多摩都市モノレール箱根ヶ崎方面への延伸について
(要望)

平成30年6月26日

東大和市

武蔵村山市

瑞穂町

多摩都市モノレール箱根ヶ崎方面への延伸について（要望）

向暑の候、貴職におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃、東大和市、武蔵村山市及び瑞穂町の行政運営につきまして、特段の御高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、多摩都市モノレールにつきましては、既に開業している上北台から多摩センター間では、1日平均で14万1千人以上が利用し、営業利益は13期連続、当期純利益は9期連続で黒字となるなど、安定した経営が達成され、地域住民の重要な交通機関として定着しております。

一方、多摩都市モノレールの上北台から箱根ヶ崎間の延伸は、鉄道利用が必ずしも便利でない地域を結ぶことで、交通利便性が飛躍的に向上するにとどまらず、拠点間の連携強化に寄与し、多摩地域の持続的な発展に資するものでございます。平成28年4月に公表された交通政策審議会の答申においても、多摩地域の主要地区間のアクセス利便性の向上に資する路線として、

「導入空間となりうる道路整備が進んでおり、事業化に向けて関係地方公共団体・鉄道事業者等において具体的な調整を進めるべき。」と高い評価を頂いております。

このたび、多摩都市モノレール箱根ヶ崎方面延伸を含めた6路線にかかる事業などの財源として「東京都鉄道新線建設等準備基金」を創設いただいたことにつきましては、モノレール延伸に向けた大きな一歩と捉えており、深く感謝の意を表すところであります。

沿線2市1町におきましても、これまでも土地区画整理事業の推進や新青梅街道沿道における都市計画変更などに取り組んできたところですが、今年度、モノレールの需要増加に資するまちづくりの検討を共同で進めていくなど、事業化を見据えた取組をより一層積極的に推進してまいります。

以上のことを踏まえ、東京都におかれましては、多摩都市モノレール箱根ヶ崎方面延伸に向け、1日も早く事業化を図られることを要望いたします。

平成30年6月26日

東大和市長 尾崎 保夫



武蔵村山市長 藤野 勝



瑞穂町長 杉浦 裕之

